

## アイヌ民族に関する教育～レポート～

札幌市立米里中学校

教諭 川内 涼

### ○社会科における実践

公民分野 「人権と共生社会 平等権～共生社会を目指して～」

#### 目標

- ・アイヌの人々が受けてきた様々な差別を歴史的背景から確認し、その実態を理解する。  
(知識・理解)
- ・国連はどのような権利を先住民族に対して認めているのかを理解する。(知識・理解)
- ・アイヌの人々が先住民族としてどのような願いをもち、これからを生きていこうとするかを考え、表現する。(思考・判断・表現)

#### 授業のポイント

「アイヌの人々は、アイヌ文化の普及活動や教育活動を活発に行っている。それはなぜなのか。」ということ学習課題を設定し、生徒同士で学び合い、考える授業を行う。

まず初めに、この課題に関して、以下の三つについて調べ、理解していく。

- ①歴史的背景について（北海道開拓の過程で生じた土地や文化に関わる問題、アイヌの人々が受けてきた差別など）
- ②北海道旧土人保護法とアイヌ文化振興法の違いについて
- ③同化政策（伝統的な風習や民族固有の生活の禁止）について

この三つの内容から、今を生きるアイヌの人々がどのような願いをもち、“これから”をどう生きていくかをグループで考え、発表する。

### ○成果と課題

#### <成果>

課題探究的な学習に関連して、グループでの学習を取り入れ、「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるように意識し、取り組んだ。また、子どもが協働して課題解決に向かえるよう、グループ学習に入る前に導入部と展開部で様々な歴史的背景や文化的背景について学び、グループ学習につなげることで、自分の考えをもちグループで共有しながら課題解決へと向かえるように意識をし、取り組むことができた。

#### <課題>

歴史的背景の確認はできたが、アイヌの人々が実際にどのような願いをもち、今を生きているのか、これからを生きていこうとしているのか、という部分で考えがまとまらなかったグループもあった。アイヌの方にゲストティーチャーに来ていただき、お話を聞いた方がよりよい学びにつながると感じた。

### ○小学校の授業との関連

小学校での学習を、中学校でのアイヌ民族教育につなげていくことがとても重要だと考える。小学校では、教室での学習のほかに、サッポロピリカコタン（アイヌ文化交流センター）など、資料が数多く保管されている施設への見学やアイヌ民具を活用した体験的な学びが多く行われている。

このような体験や経験を基に、中学校でさらに歴史的背景を学んでいくことで、深い内容について考察していくことが可能になると考える。

また、実物に触れ、どのように使用していたのかなどをイメージしながら学習することで、より実感を伴った認識を育む学習を中学校でも大切にしたいと考える。

### ○井上先生（真栄中学校）の実践より

導入のラジオ講座の場面では、ゲストティーチャーに来ていただいていることを考え、実際にアイヌ語を話していただけると、よりリアリティーが生まれ、生徒たちをひきつけることができると感じた。また、北海道旧土人保護法、アイヌ文化振興法を扱う際に、人々の暮らしに影響を与えるという内容があった。これは、アイヌの人々の暮らしのことを指していると考えられるが、具体的にどのような影響があったのかということゲストティーチャーに答えていただく方法もよいと感じた。

また、プリント資料の中に「平成25年生活実態調査」の結果を各グラフにまとめてある資料があった。その中には、高校への進学率、生活保護の状況や差別を受けた内容について記載されていた。この調査の内容を活用し、生徒たちに考えさせる展開をしていくことが可能だと感じ、自分の授業に取り入れた。

### ○今後の「アイヌ民族に関する教育」の在り方

中学校において、小学校で学んだアイヌ民族に関する教育をより発展した学習にするため、まずは歴史的背景をしっかりと理解することが重要であると考え。そのためには、分野（地理、歴史、公民）ごとの学習により、多面的・多角的な視点から考察していくことが重要である。

また、ゲストティーチャーに来ていただき、アイヌ語の発音やお話を聞かせていただくことで、生徒の多面的・多角的な思考が可能になる。さらに、映像資料や実物の資料などを活用し、関心をもたせることで「アイヌ民族」について、知りたい、学びたいという意欲を伸ばすことができると考える。

今後も学習内容に様々な工夫を行い、アイヌ民族に関する教育を充実・発展させていく必要がある。